

(株) 苫東 第 23 回 経営諮問委員会の概要

- 1 日 時 令和元年 5 月 22 日(水) 13:00~14:20
- 2 場 所 ホテルポールスター札幌 4 階「ラベンダー」
- 3 出席者 9 名中 7 名出席
- 4 議 題 (1) 最近の主な動き
(2) 平成 30 年度経営概況について
(3) 令和元年度事業計画等について
(4) 苫東開発、これまでの 10 年・これからの 10 年
- 5 委員からの主な意見

平成 30 年度は、地震による災害復旧費の支出に加え、土地分譲が次年度へ繰延されたことなどから収支に影響があったようだが、今後は収支を改善すべく戦略的な誘致活動に取り組んでいただきたい。

苫東地域では、冬道での自動走行を想定した実証試験がこれまで行われてきている。これはモデル地域として適合性があるということであり、自動走行はデータの集積が重要であることから、データセンターの誘致と合わせて取り組んでいきたい。

決算において分譲収入が前年度を下回ったが、メガソーラーや植物工場などの賃貸を継続しており、安定した経営が進められていると感じた。

物流、エネルギー、情報分野といった産業プロジェクトの誘致に向けて、弾力的・機動的な土地の有効活用に取り組んでいただきたい。

近年の傾向で大都会の土地に注目が集まる中で、商業用地、ビジネス用地でもない苫東において分譲実績があることに評価したい。

食関連産業について、北海道の将来に向けた食の輸出拡大、食の付加価値化、食の供給に向けた新たなサプライチェーンの構築など、苫東内でのフードコンプレックス形成に向けた取り組みに期待している。

宇宙産業について、北海道を宇宙産業の集積地として目指している。宇宙産業は 20~30 年かかる事業であるが、今後ロケット量産に向けてものづくり産業が集積する苫東地区、道央地区は有望な地域である。

苫東地域は植物工場が立地していることから、植物園と合体させたパッケージとして、自然の中の工業団地としての力を活かしたインダストリアルツーリズムを展開することが考えられる。

北海道は冷涼であるので、データセンターを誘致するのであれば苫東しかないと思っている。

以上